

## 第2章 高齢者を取りまく状況

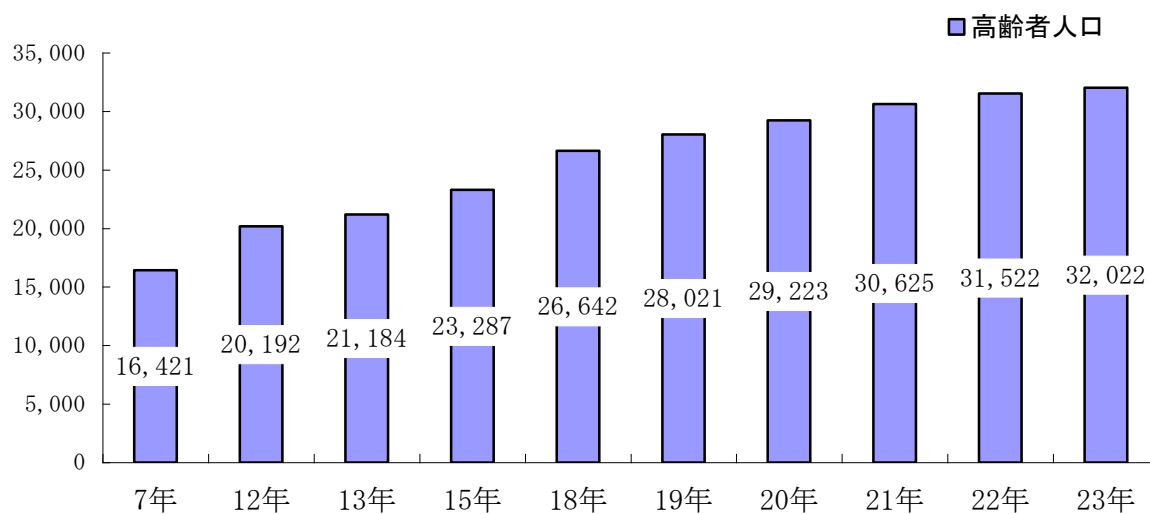
### 1 人口の動向

#### (1) 人口の推移

本市の総人口は、平成23年4月1日現在158,414人となっており、10年間で5,134人、5年間で2,962人増えています。

少子高齢化の進展に伴い、本市においても65歳以上の高齢者は増加傾向にあり、市の高齢化率は、国(23.0%・平成22年国勢調査)や茨城県(22.5%・平成22年国勢調査)に比べると低いものの、この3年間で平成20年の18.6%から平成23年の20.2%と1.6ポイント上昇しています。

(グラフ2-1) 高齢者(65歳以上)の人口推移(単位:人)



(表 2-1) 人口の推移 (単位：人・%)

各 4 月 1 日現在

区 分	総人口	65 歳以上	75 歳以上
平成 7 年	147,146	16,421 (11.2%)	6,288 (4.3%)
平成 12 年	152,534	20,192 (13.2%)	8,036 (5.3%)
平成 13 年	153,280	21,184 (13.8%)	8,504 (5.5%)
平成 15 年	153,783	23,287 (15.1%)	9,424 (6.1%)
平成 18 年	155,452	26,642 (17.1%)	10,882 (7.0%)
平成 19 年	156,444	28,021 (17.9%)	11,396 (7.3%)
平成 20 年	156,886	29,223 (18.6%)	11,963 (7.6%)
平成 21 年	157,618	30,625 (19.4%)	12,588 (8.0%)
平成 22 年	158,394	31,522 (19.9%)	13,163 (8.3%)
平成 23 年	158,414	32,022 (20.2%)	13,823 (8.7%)

※ 「75 歳以上人口」は、「65 歳以上人口」の内数。

(表 2-2) 年齢別人口 (単位：人)

平成 23 年 4 月 1 日現在

区 分	男	女	計 (A)	比 率(%)
65 歳～69 歳	4,821	4,928	9,749	(A)/(B) 6.2
70 ～ 74	4,251	4,199	8,450	5.3
75 ～ 79	2,866	3,266	6,132	3.9
80 ～ 84	1,703	2,373	4,076	2.6
85 ～ 89	745	1,578	2,323	1.5
90 歳以上	310	982	1,292	0.8
計	14,696	17,326	32,022	20.2
総人口	79,619	78,795	(B) 158,414	

## (2) 人口の推計

わが国の人口は、緩やかに減少する一方で、高齢者人口（65歳以上）は世界に類を見ない速さで増加し、平成27年（2015）には、人口の4人に1人以上が高齢者になると予測されています。

茨城県では、茨城県総合計画（いきいき いばらき生活大県プラン）（平成23年度～平成27年度）の中で、「平成17年にわずかながら減少に転じ、その傾向は現在も続いている。」としており、今後つくばエクスプレス沿線などを中心に、一定の人口の定着は見込まれるものの、県全体としては、少子高齢化の影響により人口の自然減少が進むことから、平成32年（2020年）には、概ね285万人程度まで減少すると見込んでいます。

こうした中、本市の今後3年間（平成24年～26年）の人口推計では、総人口はわずかながら増加すると見込まれますが、人口構成は、40歳未満人口が減少する一方で、65歳以上の比率は年々高くなり、平成26年には23.0%になると見込んでいます。

介護保険被保険者数の推計では、平成18年と平成26年を比較すると、第2号被保険者（40歳以上65歳未満）数が6.7ポイント増となり、第1号被保険者（65歳以上）数は34.0ポイント増と著しく増加すると予測しています。

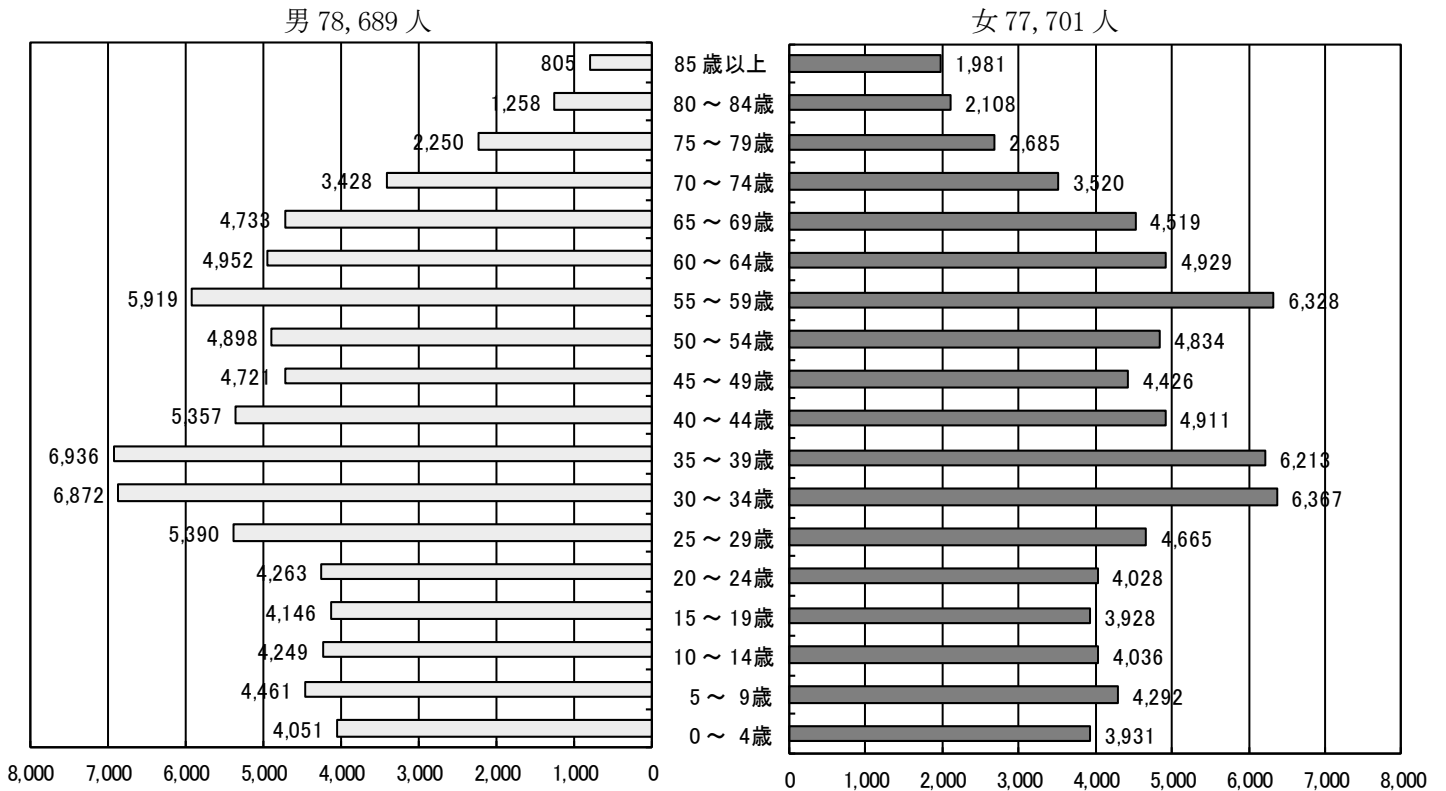
(表 2-3) 市の人口・介護保険被保険者数推計 (単位：人)

区 分	平成18年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年
総人口	156,390	158,203	158,462	158,511	158,681	158,851	159,021
40歳未満	77,828	75,116	73,867	72,425	70,840	69,210	67,756
40歳以上合計	78,562	83,087	84,595	86,086	87,841	89,641	91,265
内 訳	40～64歳	51,275	51,991	52,797	53,786	54,205	54,691
	65歳以上合計	27,287	31,096	31,798	32,300	33,636	35,086
	65～74歳 (前期高齢者)	16,200	18,304	18,393	18,322	18,731	19,957

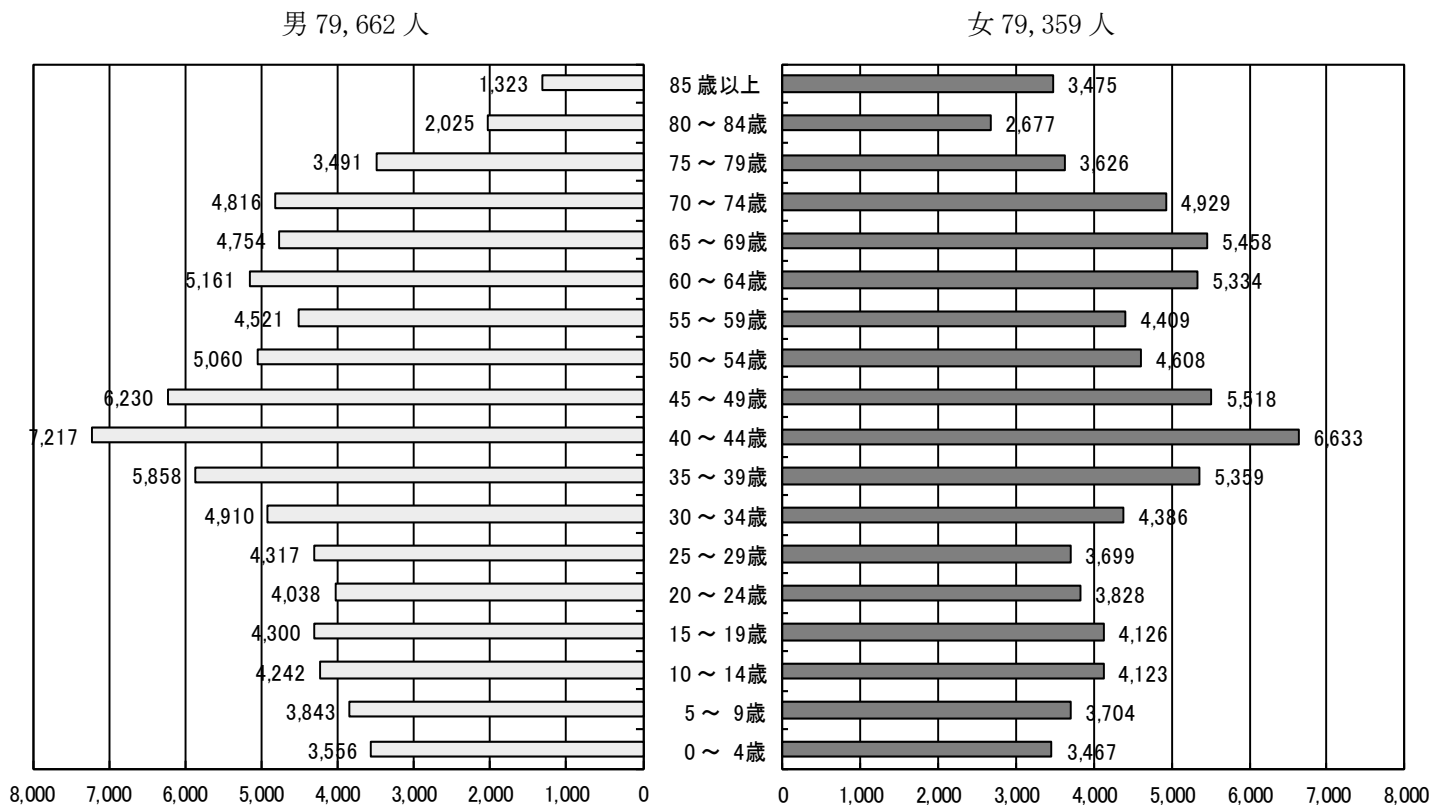
※平成24年度以降は、平成23年10月1日住民基本台帳を基準に推計。(各年10月1日現在)

※介護保険制度は、被保険者の保険料等で運営され、被保険者の特定は住民基本台帳をもとにしていることから、住民基本台帳を基準に人口推計を行っています。

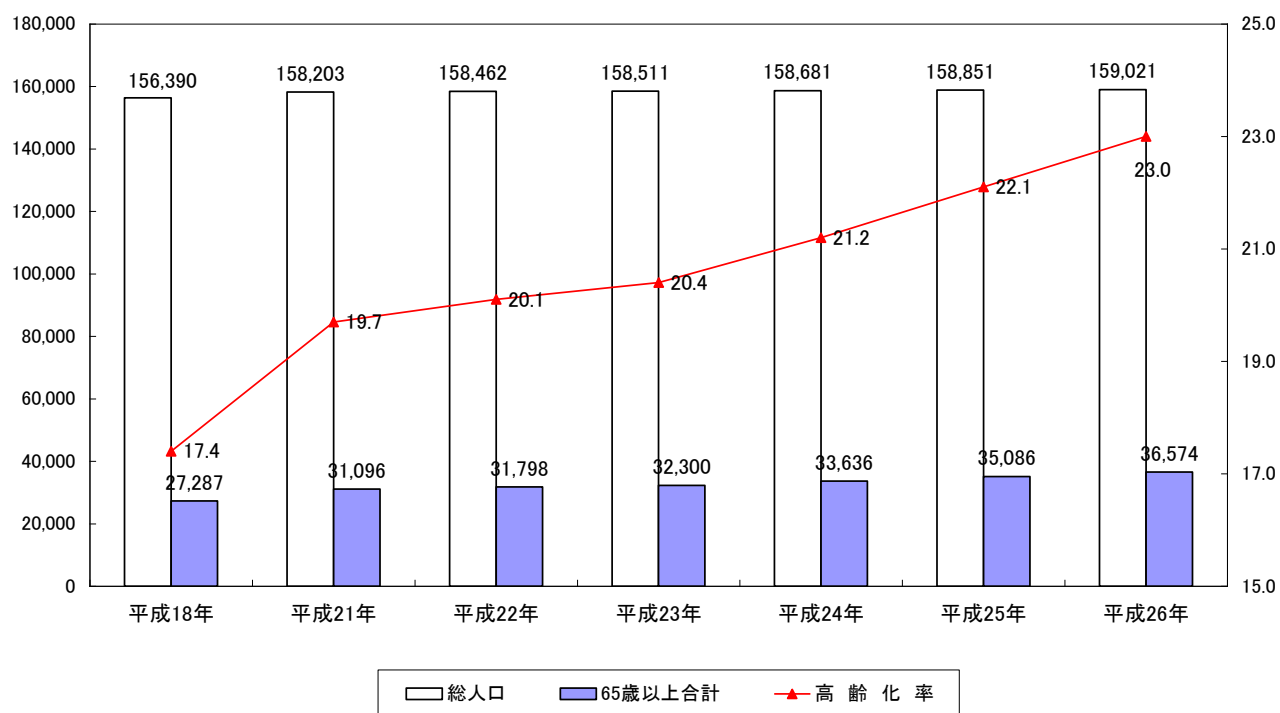
(グラフ 2-2) 平成 18 年の人口構成 (単位 : 人)



(グラフ 2-3) 平成 26 年の推計人口構成 (単位 : 人)



(グラフ 2-4) 人口の推移 (単位: 人・%)



## 2 高齢者の状況

### (1) 高齢者の世帯と住居状況

本市の高齢者のいる世帯数は増加傾向にあり、平成22年国勢調査では20,882世帯で、平成17年10月の調査と比較して3,465世帯（世帯構成比：3.7ポイント増）、平成12年10月から10年間で6,770世帯（世帯構成比：8.2ポイント増）増加しています。

高齢者のいる世帯の住居の状況は、本市においては持ち家率が88.8%と高いものの、前回調査よりわずかながら減少しています。

(表2-4) 世帯状況の推移（単位：世帯，％）

区 分		平成12年		平成17年		平成22年	
		世帯数	構成比	世帯数	構成比	世帯数	構成比
総世帯数		53,476	100.0	56,319	100.0	60,268	100.0
高齢者のいる世帯数計		14,112	26.4	17,417	30.9	20,882	34.6
内 訳	ひとり暮らし世帯数	2,038	3.8	2,813	5.0	3,739	6.2
	夫婦のみ世帯数	3,871	7.2	5,401	9.6	6,830	11.3
	その他の世帯数	8,203	15.4	9,203	16.3	10,313	17.1

資料：国勢調査

(表2-5) 高齢者のいる世帯の住居状況の推移（単位：世帯，％）

区 分		平成12年		平成17年		平成22年	
		世帯数	構成比	世帯数	構成比	世帯数	構成比
高齢者のいる世帯数計		14,112	100.0	17,417	100.0	20,882	100.0
持ち家		12,770	90.5	15,742	90.4	18,547	88.8
借家		1,342	9.5	1,675	9.6	2,335	11.2
内 訳	公営・公団・公社	414	2.9	585	3.4	732	3.5
	民 営	756	5.4	958	5.5	1,318	6.3
	給与住宅（社宅）	53	0.4	25	0.1	35	0.2
	間 借 り	101	0.7	97	0.6	239	1.1
	そ の 他	18	0.1	10	0.1	11	0.1

資料：国勢調査

## (2) 高齢者の就労状況

高齢者の就労状況をみると平成22年の国勢調査結果では、65歳以上の労働人口は5,999人(就業率:18.9%)となっています。しかしながら、平成7年以降の調査結果をみると就業者数は増加しているものの就業率は減少傾向にあります。

(表2-6) 就労状況(単位:人)

区 分	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年
総人口	146,750	151,673	153,639	157,060
高齢者人口(A)	16,543	20,326	25,739	31,744
15歳以上労働人口	75,639	75,888	73,067	78,032
65歳以上労働人口 (B)	3,928	4,250	5,164	5,999
高齢者就業率 (B) / (A)	23.7%	20.9%	20.1%	18.9%

資料: 国勢調査

### 3 日常生活圏域ニーズ調査結果の概要

#### (1) 日常生活圏域ニーズ調査

日常生活圏域ニーズ調査は、主に生活機能の面から高齢者の生活状況、圏域間の状況等を把握し、介護（予防）サービスをはじめとする各種サービスの提供等の参考とするものです。

なお、この調査の集計にあたっては、国が作成した日常生活圏域ニーズ調査生活支援ソフトによりまとめました。

【調査対象】	第1号被保険者（要介護3以上の認定者は除く）
【標本数】	4,500人
【抽出方法】	無作為層化抽出(男女別, 年齢層別, 日常生活圏域)
【調査方法】	郵送発送・郵送回収法
【調査期間】	平成23年9月11日～平成23年9月30日
【有効回収数】	3,052名
【回収率】	67.8%
【調査内容】	参考資料・データに掲載

#### ①基本チェックリスト項目

基本チェックリストは、介護予防事業における要介護・要支援状態になるおそれの高い高齢者（二次予防事業対象者）を把握するために実施されるもので、日常生活における具体的な基本的動作等の可否等により、「運動器」、「栄養」、「口腔機能」、「閉じこもり」等の6つの視点で高齢者の状態を判定していきます。

今回の調査における日常生活圏域ごとの二次予防対象者として把握された人数は、表のとおりとなっています。

「運動器の機能」の低下の認められる方の割合は、全体で20.4%となっており、最も高い「勝田第一中学校区域」と最も低い「佐野中学校区域」の圏域間での差は5.8ポイントとなっています。

「口腔機能」の低下の認められる方の割合は、全体で19.0%、最も高い「勝田第三中学校区域」と最も低い「那珂湊中学校区域」の圏域間での差は7.3ポイントとなっています。

「認知症予防」、「うつ予防」において注意を要する方は、平均で「認知症予防」が39.2%、「うつ予防」が31.0%と全体的に高い傾向を示しております。

また、「栄養」については、低下が認められる方は全体の1.2%、「閉じこもり予防」に注意を要する方は全体の8.2%と低い状況にあります。



(表 2-7) 調査から把握された日常生活圏域ごとの二次予防事業対象数等

区 分	総 数	二次予防事業対象者把握項目及び対象者数			
		運動器の 機能向上	栄養改善	口腔機能の 向上	閉じこもり 予防・支援
勝田第一中学校区域	358	87 (24.3%)	7 (2.0%)	71 (19.8%)	29 (8.1%)
勝田第二中学校区域	373	78 (20.9%)	5 (1.3%)	78 (20.9%)	24 (6.4%)
勝田第三中学校区域	305	74 (24.3%)	2 (0.7%)	68 (22.3%)	33 (10.8%)
佐野中学校区域	325	60 (18.5%)	3 (0.9%)	60 (18.5%)	28 (8.6%)
大島中学校区域	407	80 (19.7%)	6 (1.5%)	74 (18.2%)	36 (8.8%)
田彦中学校区域	346	66 (19.1%)	8 (2.3%)	71 (20.5%)	29 (8.4%)
那珂湊中学校区域	507	95 (18.7%)	3 (0.6%)	76 (15.0%)	30 (5.9%)
平磯中学校・阿字ヶ浦中学校 区域	431	84 (19.5%)	2 (0.5%)	82 (19.0%)	42 (9.7%)
計	3,052	624 (20.4%)	36 (1.2%)	580 (19.0%)	251 (8.2%)

区 分	総 数	二次予防事業対象者把握 項目及び対象者数	
		認知症 予防・支援	うつ予防支 援
勝田第一中学校区域	358	145 (40.5%)	127 (35.5%)
勝田第二中学校区域	373	157 (42.1%)	117 (31.4%)
勝田第三中学校区域	305	132 (43.3%)	85 (27.9%)
佐野中学校区域	325	119 (36.6%)	104 (32.0%)
大島中学校区域	407	157 (38.6%)	107 (26.3%)
田彦中学校区域	346	134 (38.7%)	115 (33.2%)
那珂湊中学校区域	507	177 (34.9%)	152 (30.0%)
平磯中学校・阿字ヶ浦中学校 区域	431	175 (40.6%)	138 (32.0%)
計	3,052	1,196 (39.2%)	945 (31.0%)

## ②転倒リスクについて

高齢期における転倒は、骨折などになり易く、ひいては、ねたきりの原因ともなります。

ここでは、調査項目における1年以内における転倒の有無、歩く速度が遅くなる、杖の使用状況など転倒リスクのある方の状況をまとめました。

全体の平均は23.9%となっており、最も高い「平磯中学校・阿字ヶ浦中学校区域」と最も低い「大島中学校区域」との比較では、差が4.6ポイントとなっています。

(表 2-8) 転倒リスクの高い人の人数と割合

区 分	総 数 (A)	リスクの ある人 (B)	(B)/(A)
勝田第一中学校区域	358	91	25.4%
勝田第二中学校区域	373	94	25.2%
勝田第三中学校区域	305	70	23.0%
佐野中学校区域	325	72	22.2%
大島中学校区域	407	88	21.6%
田彦中学校区域	346	84	24.3%
那珂湊中学校区域	507	117	23.1%
平磯中学校・阿字ヶ浦中学校 区域	431	113	26.2%
計	3,052	729	23.9%

### ③日常生活・社会参加について

#### a 老研式活動能力指標による評価結果

調査項目における①「買物，外出，食事の準備」等の状況（IADL），②「書類作成，新聞・読書」等の状況（知的能動性），③「友人宅の訪問，家族等の相談にのる」等の状況（社会的役割）を基に，複雑な生活関連動作や社会的役割を担う能力等を点数化し①～③の項目の合計により総合的に評価しています。

全体の平均では72.1%の方は，評価が高い状態にあります。また，圏域間の差は最も高い「勝田第二中学校区域」と最も低い「那珂湊中学校区域」では8.5ポイントの差があります。

(表 2-9) 老研式活動能力指標からみた日常生活圏域ごとの状況

区 分	総 数	高 い (11点以上)	やや低い (9～10点)	低い (8点以下)
勝田第一中学校区域	358	256 (71.5%)	43 (12.0%)	28 (7.8%)
勝田第二中学校区域	373	286 (76.7%)	19 (5.1%)	32 (8.6%)
勝田第三中学校区域	305	224 (73.4%)	31 (10.2%)	34 (11.2%)
佐野中学校区域	325	239 (73.5%)	30 (9.2%)	21 (6.5%)
大島中学校区域	407	296 (75.7%)	39 (9.6%)	46 (11.3%)
田彦中学校区域	346	252 (72.8%)	38 (11.0%)	27 (7.8%)
那珂湊中学校区域	507	346 (68.2%)	57 (11.2%)	42 (8.3%)
平磯中学校・阿字ヶ浦中学校区域	431	301 (69.8%)	40 (9.3%)	41 (9.5%)
計	3,052	2,200 (72.1%)	297 (9.7%)	271 (8.9%)

※設問に未回答のある方は，判定から除いています。

## b 相談等について

「困りごとなど何かあったときに、家族や友人・知人などに相談していますか。」との問いに対して、「はい」と答えた方は2,753名(90.2%)となっており、その相手は「配偶者、子、子の配偶者」と家族が最も多くなっています。

また、「誰にも相談しない」と答えた方も259名いました。

(表 2-10) 高齢者の相談相手の状況

区 分	回答数
配偶者	1,828
子, 子の配偶者	3,037
兄弟姉妹	668
知人・友人	624
医師・看護師等	322
民生委員, 自治会等地域関係者	130
市役所, 地域包括支援センター等	144
その他	23

※重複回答。

## c 生きがい・社会参加について

「生きがいはありますか」との問いに対して、「はい」と答えた方は2,497名となっていますが、18.2%にあたる555名の方は「ない」と答えました。

また、社会参加の状況についての問いに対しては、「参加していない」と答えた方が最も多く、次いで、「自治会・町内会」、「サークル・自主サークル活動」、「祭り・行事」となっています。

(表 2-11) 高齢者の社会参加の状況

区 分	回答数	割合
祭り・行事	625	20.5%
自治会・町内会	1,010	33.1%
サークル・自主サークル	679	22.2%
高齢者クラブ	347	11.4%
ボランティア活動	327	10.7%
その他	95	3.1%
参加していない	1,120	36.7%

※重複回答。

## ④健康について

### a 健康感

現在の健康感については、「とても健康，まあまあ健康」と回答した方が全体の74.1%と治療中の疾病はある方でも，自身の健康に対しては比較的よい評価をしています。

(表 2-12) 健康感の状況

区 分	回答数	割合
とても健康	344	11.3%
まあまあ健康	1,919	62.9%
あまり健康でない	401	13.1%
健康でない	176	5.8%
無回答	212	6.9%
計	3,052	—

### b 疾病の状況

治療中，または後遺症のある疾病の状況についての回答は，次のとおりです。

特に，長年の生活習慣が要因となって発生するといわれている疾病（高血圧，糖尿病，脂質異常等）の罹患率が高くなっていますが，一方で「なし」と回答した方も360名（11.8%）います。

(表 2-13) 治療中の疾病等の状況

疾 病 名 等	該当者数	罹患率
高血圧	1,331	43.6%
脳卒中（脳出血，脳梗塞）	158	5.2%
心臓病	367	12.0%
糖尿病	421	13.8%
高脂血症（脂質異常）	290	9.5%
呼吸器の病気（肺炎等）	160	5.2%
胃腸・肝臓・胆のうの病気	246	8.1%
腎臓・前立腺の病気	234	7.7%
がん	100	3.3%
うつ病	29	1.0%
認知症（アルツハイマー病等）	42	1.4%
な い	360	11.8%

※重複回答。